



ASAHIYAMA ZOO

旭山 どうぶつえん ニュース

モユク・カムイ

『モユク・カムイ』

(アイヌ語でエゾタヌキのことです。)



目次

- 2.3 肉食動物 その3
『クマの仲間』
- 4.5 特集『傷病野生鳥獣の保護』
- 6 動物園界の話題
獣医室から
ポストコーナー
- 7 飼育研究レポート
『テナガザルの飼育』
- 8 動物園日誌
お知らせ

エゾヒグマ *Ursus arctos lasiotus*

3年前の秋、旭山動物園の近くに野生のヒグマが現れました。一時は動物園のヒグマが逃げ出したものと疑われましたが、野生のヒグマとわかり厳重な警戒態勢がひかれました。そのヒグマは動物園の外柵ぞいに歩きまわったり果樹園や墓地を散歩したあと山へ帰っていったようです。旭山動物園が大雪山と続いていることを実感しました。

OCT. 1988

14

特集：クマ(熊)

クマ科の動物たちは食肉目(肉を食べる動物の仲間)に分類されていますが、アザラシを主食とするホッキョクグマを除き、主に植物(木の実や草など)を食べています。

☆クマの特徴

- 大きくてどっしりとした胴体**
 : 地上最大の肉食獣、最大記録は
 ホッキョクグマ、1002Kg
 コディアックヒグマ、726Kg
- 地味な毛色**
 : ホッキョクグマの白から
 マレーグマの黒まで主に
 褐色系が目立たない
- 短い尾**
- 鼻** : 敏感な嗅覚
- 頭・顔** : 大きな頭、
 表情を顔に表さない
- 小さな目と耳**
 鼻(嗅覚)に比べると
 目(視覚)、耳(聴覚)は劣る
- 歯** : 肉も植物も食べることができる
 鋭い犬歯(獲物を捕らえる)
 平たい臼歯(植物をすりつぶす)
- 爪** : 長く鋭い 平たい臼歯(植物をすりつぶす)
 外からも長く見える
- とても小さな赤ちゃん**
 : 小さく産んで大きく育てる
 ヒグマ 300~600 g
 ホッキョクグマ 500~700 g
- 足の裏** : 幅広く偏平。ヒトのように
 「かかと」をつけて歩く(趾行性)
 ホッキョクグマはびっしりと
 毛で覆われている



世界のクマ(分布)

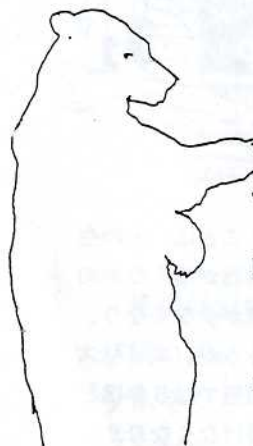
クマ科: 2属7種に分類され、日本には北海道にヒグマ、本州、四国、九州(絶滅?)にニホンツキノワグマが生息している。クマ科の動物は群を作ることがなく、単独生活か母子で暮らしている。



ヒグマと人間

かつて北半球に広く分布していたヒグマも森林開発による環境破壊や乱獲などのためにその生息数は急速に減少し、既に絶滅してしまった地域も多くあります。ヨーロッパではピレネー山脈に残っている数十頭を残し絶滅してしまい、アメリカ合衆国ではアラスカ州を除いて180年前の10万頭が現在では千頭にまで激減してしまいました。

では、北海道のエゾヒグマはどうなのでしょう？ 北海道でも同じような状況で、明治以降の開拓が人間とヒグマとの接点を拡げ、その結果ヒグマによる被害を理由に「駆除」が行われてきました。現在も続けられている狩猟と森林開発による生息環境の悪化がエゾヒグマを追いつめています。しかし、最近ヒグマを研究している人々を中心に「人間」と「ヒグマ」がこの北海道で仲よく生き続けていくにはどうしたらいいのか、又その方法がないものかと考え研究が続けられています。



傷病野生動物の保護状況 Part 1

旭山動物園では傷ついたり弱ったりした野生動物を収容し治療しています。元気になったらすぐに自然に帰してやりたいのですが、うまく飛べなくなってしまう鳥や渡りの季節を外してしまった鳥、人になれ過ぎてしまったものなど、もう自然界に帰せなくなってしまうものもたくさんいます。これらの動物たちは道産動物コーナーで展示されたり、空いている場所で飼育されています。

今回はどんな動物たちが保護されているのかをまとめてみました。

哺乳類

保護された動物を種ごとに集計し、昭和50～54年の5年間（表1，A）と昭和58～62年の5年間（表1，B）を比較してみました。全体として減少してきています。

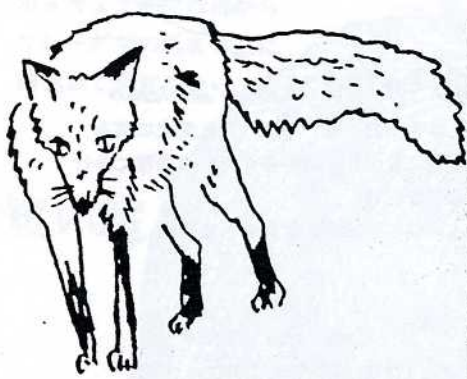


表1 保護動物数の比較（哺乳類）

動物名 \ 年度	50	51	52	53	54	A計	58	59	60	61	62	B計
エゾユキウサギ	0	1	1	6	8	16	3	2	3	4	0	12
エゾリス	0	1	2	2	3	8	0	0	1	2	0	3
エゾモモンガ	0	0	0	3	4	7	0	0	1	0	0	1
エゾタヌキ	2	2	4	7	1	16	3	6	1	5	3	18
キタキツネ	4	3	3	1	7	18	8	4	0	2	4	18
エゾヒグマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
エゾシカ	1	0	1	1	0	3	0	0	1	1	2	4
コウモリ	3	1	3	0	0	7	0	1	2	0	1	4
その他	0	0	3	4	1	8	1	2	0	1	0	4
合計	10	8	17	24	24	83	15	15	9	16	10	65

キツネ・タヌキ

キツネは旭山周辺でも良く見掛けます。町の中にまで出てきているという連絡もたくさんあります。保護個体も多くなってきていると思いましたが表の通りあまり変化はありません。ただエキノコックス症に関する問い合わせは多くなってきています。タヌキの保護は春先に集中します。冬の間に痩せ細ってしまい栄養失調になって保護されてきます。キツネが交通事故で保護されるものが多いのとは対照的です。キツネの方が活動的だといえるでしょう。



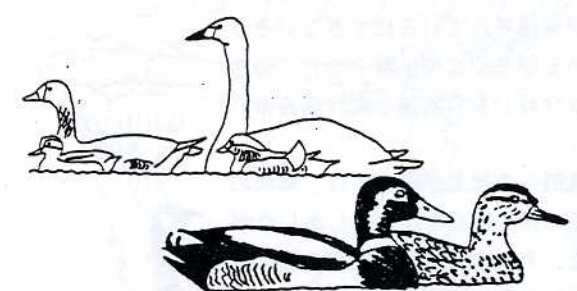
エゾリス

Aに比べBは明らかに減少しています。保護個体が増加するということは、人の生活圏に動物が出てくるようになるか、人が動物の生活圏に入るか、動物が増えたかのいずれかでしょう。逆に減少するという事は動物の生活できる環境が少なくなり、その結果個体数が減少したため保護個体も減少するのではないのでしょうか。エゾリスの場合もう1つ考えられることは肉食動物の影響があります。旭山周辺では3年ほど前まではエゾリスをよく見掛けましたが、最近エゾリスをあまり見掛けなくなりました。一方キツネの数は多くなってきていますし、クロテンまでもが現れるようになりました。カラスの数も影響していると思われ、環境の悪化のほかに動物同志のバランスが崩れてきてエゾリスが少なくなってきているのかも知れません。



鳥類

全体として保護される個体数は増加しています。これは市民の方々の意識が向上したということもあるでしょうが、鳥たちの生活圏に人が入り込んでいる、あるいは鳥たちが人の生活空間に出てこざるを得なくなった結果ではないのでしょうか。



キツツキ目

クマゲラやアカゲラの仲間です。木の中にいる虫をたべたり、木に巣穴を掘って繁殖するため豊かな原生林がないと生きて行けません。私たちの目に見えないところで森林破壊が進行しているのではないのでしょうか。将来保護数が減少してきたら生息数が減少してきていると考えられます。

ガンカモ目

ハクチョウやカモの仲間です。ここ数年保護される個体数が急増しています。保護される個体のほとんどがマガモのヒナで占められています。旭川は川の多い町ですから、コンクリートの護岸工事よりも自然と共存できる護岸対策をたてるべきだと思いませんか。

ヨタカ目

ヨタカは渡り鳥で、冬は南方に渡ってしまいます。以前は旭山周辺でもごく普通にみられましたが、最近あまり姿を見掛けなくなりました。

夕方になると特徴のある鳴き声を出し、飛びながら虫を食べます。

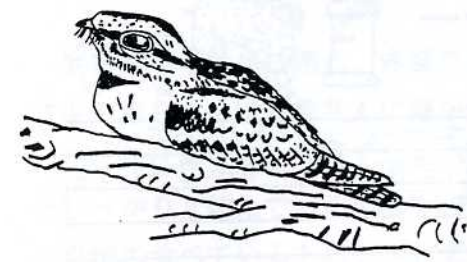


スズメ目

スズメからヒバリ、ムクドリ、カラスに至るまで数多くの種類が含まれています。これも近年種類と個体数が増えています。

表2 保護動物数の比較（鳥類）

目名 \ 年度	50	51	52	53	54	A計	58	59	60	61	62	B計
ガンカモ	2	2	7	5	8	24	4	14	5	30	11	64
ワシタカ	18	18	15	22	18	91	21	23	20	30	26	120
フクロウ	9	11	3	10	4	37	7	8	6	5	5	31
ヨタカ	4	2	1	2	0	9	2	1	0	1	1	5
キツツキ	0	1	2	0	1	4	5	0	1	6	5	17
ホトトギス	4	1	5	2	0	12	1	0	2	3	4	10
スズメ	11	12	5	23	7	58	29	21	27	22	23	122
その他	11	18	12	14	14	69	8	7	8	8	17	48
合計	59	65	50	78	52	304	77	74	69	105	92	417



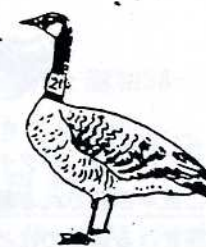
旭川は自然の豊かな町です。しかし目に見えるところ、見えないところで自然破壊が続いているようです。人の生活圏に積極的に入ってきて生き延びようとしているキツネやマガモなどとは対照的に姿もみせずひっそりと居なくなってしまう動物たちのほうが多いのではないのでしょうか。旭川はいまいろいろな問題に直面しています。この町の将来を考えると、自然との関わりは大変大きな問題となってくるでしょう。利益や便利さだけを追求する時代ではなくなるような気がします。

動物園界の話題

シジュウカラガン復帰計画

仙台市には「仙台雁研究会」という団体がある。「観文禽譜(1823)」によると仙台にはシジュウカラガンが多く、10羽捕らえると6〜7羽はシジュウカラガンであったそうです。しかし現在は辛うじて1〜2羽の飛来が確認されているにすぎないそうです。そのシジュウカラガンを何とか仙台の近郊にある伊豆沼に呼び戻そうと、仙台市と仙台雁研究会が協力してアメリカからシジュウカラガンを9羽譲り受け仙台市八木山動物園で飼育し30羽にまで繁殖させました。

さて、いよいよ放鳥ですが、1985年から越冬地伊豆沼への放鳥が開始され、86年の2羽と87年の4羽がマガンの群と共に美明市の宮島沼の休憩地までは北帰しましたが、結局それ以上は北上せず伊豆沼へ帰ってしまいました。そこで今年は秋に宮島沼に放鳥しマガンの群と共に越冬地伊豆沼へ渡らせて、来春の北帰を期待する計画をしています。現在、放鳥予定のガンは旭川市旭山動物園で預かっていますが、将来にはこの雄大な計画に当園も参加させていただき、日本へ再度シジュウカラガンが渡ってくる日が来ることを共に祈りたいものです。このような仕事も動物園が果たしていける大切な使命であることを考えていただきたいと思います。(K)〜



獣医室から

足の病気

9月22日、フラミンゴが骨折してしまいました。あの細い関節の所で折れてしまったのです。動物園の動物の病気で一番厄介なのは足のけがです。空を飛ぶ鳥でさえ片足をなくしてしまえば長くは生きて行けません。人でしたら足を骨折しても普通は治りますが、シカやウマなどが長い間横になって寝ていると「褥瘡」といって床と接している部分が自分の体重で圧迫され壊死してしまいます。人でも「床ずれ」といって長い間起きられない状態が続くとなってしまいます。

最近困っているのはホッキョクグマのコユキです。戸を前あしでドンドンドンと休みなく叩き続けるんです。運動場に出すと寝室に入りたくて、寝室に入ると出たくて、要するに一日中叩いています。右利きのようで左前脚ではうまく叩けないようです。そのうち腱鞘炎になるんじゃないかと心配です。何か好い知恵はありませんか？(B)

ポストコーナー



どうぶつえんのおじさんへ

わたしは、どうぶつが大好きです

どうぶつえんに行くし、どうぶつ

の出るテレビいつも見えています。

ひまわりのたねは、りかの

おべんきょうでうえたのが

らとりました。かわいいリスに

食させてください。おね

がしします

三年

青地 さとみ

どうさんおねえさんまでですか？あつに

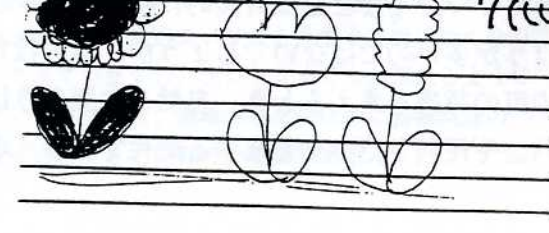
あつにあつにあつにあつにあつに

どうぶつをせわしてあげるおじさん

ごくろうさん

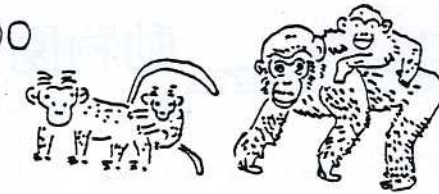
どうのあしのかたちをくみまわして

まわっています。

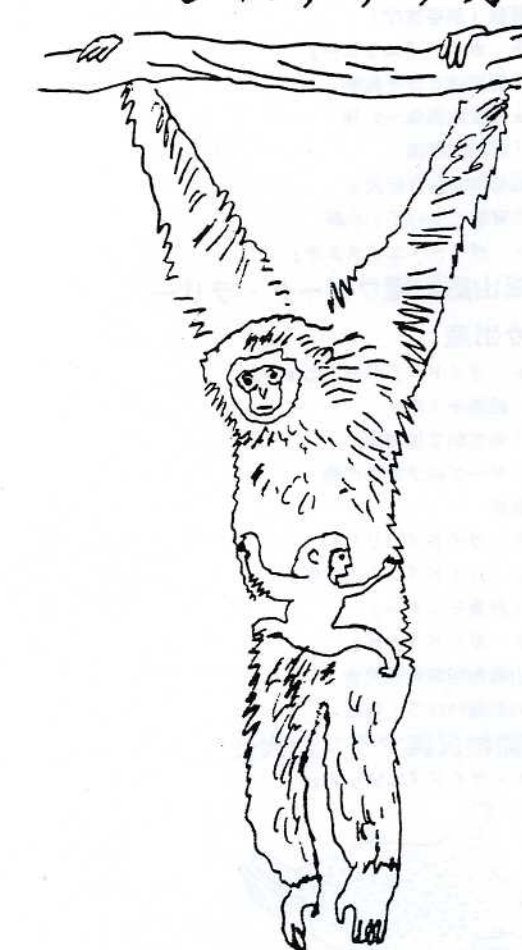


飼育研究レポート

旭山ZOO
の記録



シロテテナガザルを飼育して



旭山動物園では昭和42年の開園からシロテテナガザルを飼育してきました。現在飼育している個体は昭和57年に入園したメスと60年、63年に産まれた子供2頭の3頭家族です。夫婦仲がよく子供を大切にした父親は残念ながら今年7月急死してしまいました。

テナガザルはチンパンジーやゴリラが群を作って生活しているのとは違い家族で生活しています。ですから動物園でも夫婦仲が良く出産のときも父親と一緒にいてもかまいません。又、知能程度も高く、チンパンジー、オランウータン、ゴリラと共に類人猿として他のサルの仲間と区別されています。育児に要する期間も長くニホンザルの仲間(オナガザル科)のように毎年出産することはありません。子育てに2年半ほど必要なため出産は3年に1頭の割り合いになるようです。

生まれた子は目は閉じ、赤裸で母親のおなかにしっかりとしがみついております。サルの赤ちゃんはお母さんに抱かれているのではなく自分でしっかりとしがみついているなければ振り落とされてしまいます。それは類人猿も同じで、人間の赤ちゃんが手をしっかりと結んでいるのはその名残りだと考えられています。生後3ヶ月をすぎると母親の食べているものを少しずつ取って食べるようになり、徐々に一人遊びをするようになります。そして3才になる頃には下に子ができて親からの「干渉」も少なくなり段々と独り立ちして行くようになり、大人になると家族から出て結婚します。

今年生まれの子が母親から離れる2年後までには何とかして成獣のオスを入園させメスと再婚させたいと考えています。現在国内の動物園で飼育されているシロテテナガザルは24園館で55頭が飼育されています。各園館とも協力しあいシロテテナガザルの繁殖に取り組んでいきたいと考えています。(小木木)



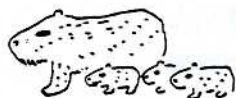
動物園日誌

《昭和63.7.16 ~ 63.10.10》



7.17 愛称命名式

オセロット オス アイ
メス ラブ
命名者 橋場大悟君、みゆきちゃん
オオヤマネコ メス ミミ
命名者 岩淵友輝君
カビバラ オス ムシャ
メス モグ
メス バク
命名者 梅田記代美さん



7.19 シロテテナガザル死亡(肺炎)

7.23 エゾリス6頭沖繩へプレゼント

7.24 第3回親子動物教室「動物の動きを描く」
動物園サマーフェスティバル〜8.21

7.31 第3回親子動物教室「動物の動きを作る」
エミューのヒナ死亡(骨折)

8.1 第13回旭山動物園サマースクール
〜8.3

8.3 シベリアヒョウ(オス)入園
フィンランド、ヘルシンキ動物園より

8.5 『夜の動物園』〜7.12〜16

8.7 第3回親子動物教室「夜の動物園探検Ⅰ」
パネル展「第2回サマースクール展」〜9.30

8.8 Zooガイド「神居東小PTA」

8.12 Zooガイド「春光台公民館」

8.14 第3回親子動物教室「夜の動物園探検Ⅱ」

8.19 ダチョウ、「ハヤコ」死亡

8.21 ワンポイント・ガイド「キリン」
Zooガイド「比布なんでも体験クラブ」

8.25 第133回旭山動物園飼育研究会
「過去5年間の動物死亡について」小菅

8.27 シベリアヒョウ(メス)入園
アメリカ、センターヒルより

8.28 ワンポイント・ガイド「サル」

9.2 オジロワシ保護(宗谷支庁)

9.4 ワンポイント・ガイド「エミュー」
Zooガイド「青空歯ミガキ教室」

9.5 シベリアヒョウ愛称募集〜9.18

9.8 Zooガイド「名寄幼稚園」

第134回旭山動物園飼育研究会

「エミューの育雛について」小林

9.11 ワンポイント・ガイド「エゾタヌキ」

9.15 第4回旭山動物園ウォーク・ラリー
エゾシカ出産

9.18 ワンポイント・ガイド「シベリアヒョウ」

9.19 Zooガイド「緑新小1年」

9.20 Zooガイド「末広第2保育園」

9.22 Zooガイド「テーブルクロスのか」

フラミンゴ骨折

9.23 ワンポイント・ガイド「ゴリラ」

9.25 ワンポイント・ガイド「ユキウサギ」

9.26 Zooガイド「計量モニター」

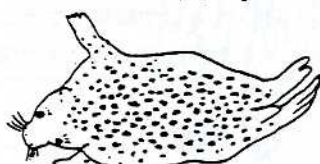
10.2 ワンポイント・ガイド「カメ」

10.6 第134回旭山動物園飼育研究会

「エゾリスの繁殖Part5」牧田

10.9 第2回動物仮装マラソン大会

10.10 ワンポイント・ガイド「エゾリス」



編集後記

4月29日に開園し、夏休みになったなと思った途端、
10月になってしまいました。旭山動物園の昭和63年度
開園は23日で終了です。半年がもう過ぎてしまったのか
という思いで一杯です。本年も動物園をたくさん利用して
下さいましてありがとうございました。

冬は動物たちにとって来春の繁殖のための大切なときで
す。冬期閉園中も動物たちは元気に生活し、来春また皆さ
んにお目に掛かれる日を楽しみにしています。



飼育動物数

(9月30日現在)

哺乳類	43種	197点
鳥類	76種	395点
爬虫類	4種	21点
合計	123種	613点



モユク・カムイ

No. 14

昭和63年10月23日

発行所 旭川市旭山動物園

☎ 078 旭川市旭山動物園 ☎ 0166(36)1104

発行人 菅野 浩

編集委員 小菅正夫 阿部 寛 坂東 元